

## 平成24年度放射性物質にかかる土壌調査の取り組み

### 研究のねらい

東京電力福島第一原子力発電所の事故による県内農耕地への放射性物質の汚染状況を把握するため、農耕地から土壌を採取し放射性セシウムの詳細な分布について調査しています。土壌試料からゲルマニウム半導体検出器を用いて放射性セシウム濃度を測定します。

平成23年度は現状を把握するため、面積あたりの放射性セシウム量を表した沈着量分布図と、沈着量分布図から推定した土壌中の放射性セシウム濃度分布図を作成しました。

平成24年度からはモニタリング定点調査と、詳細調査を行っています。



写真1 ゲルマニウム半導体検出器

### 調査の概要

#### 1 モニタリング定点調査

##### (1) 目的

県内農耕地の放射性セシウムの減衰や移動等を把握します。

##### (2) 対象ほ場

地域を代表するほ場として88地点

##### (3) 調査項目

放射性セシウム（土壌）、土壌一般分析項目（pH、交換性K<sub>2</sub>O等）、CEC、C/N、粘土鉱物組成、空間放射線量

#### 2 詳細調査

##### (1) 目的

土壌の性質等を加味した対策を講じるため、放射性セシウムが含まれる農耕地土壌とそこで生産される作物等を調査します。

##### (2) 対象地域・ほ場

市町村等との協議に基づき対象地域・ほ場を選定

##### (3) 調査項目

土壌放射性セシウム（土壌、作物体）、土壌一般分析項目（pH、交換性K<sub>2</sub>O等）、CEC、C/N、作物体K<sub>2</sub>O、空間放射線量、耕種概要



写真2 土壌採取の様子

### 今後の取り組み

調査結果は年度ごとに取りまとめ、公表する予定です。

（執筆者：飯塚 正英）